

1. 略歴

1981年3月	東京大学文学部国文学専修課程卒業
1984年3月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程修了
1984年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程退学
1986年4月	東京大学文学部助手
1988年4月	フェリス女学院大学文学部専任講師
1991年4月	フェリス女学院大学文学部助教授
1993年4月	上智大学文学部助教授
1999年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
1999年4月	博士（文学）（東京大学）
2006年10月	東京大学大学院人文社会系研究科教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

中世文学、和歌文学

b 研究課題

和歌文学については、マクロ的には和歌史を構想し記述すること、ミクロ的には新古今集前後を中心とした中世和歌作品の方法を解明することを課題としている。前者は専門化し、細分化された研究の現状に対して、和歌を長い射程のもとに捉え、この文芸のもつ意義と独自性を総体的に把握することを目指している。後者は、作品を完成したものとして結果論的に捉えるだけでなく、より作者自身の方法に即した、内在的な理解を目標としている。

中世文学については、徒然草や方丈記など、とくに和歌的素養を基盤とした作品について、とくにその文体と方法を解明することを目標としている。

c 概要と自己評価

中等教育との、いわゆる高次連携を目的として、和歌の入門書『古典和歌入門』と『絵でよむ百人一首』の2単著を上梓し、かつ和歌技法の入門書『和歌のルール』を編集した。そのほか高校生を古典に参加させる授業方法を考察する研究発表「和歌をつくる」を行った。また、和歌研究の水準を明示する辞典、『和歌文学大辞典』に編集委員として参加した。いずれも研究の普及に一定の役割を果たしたと評価できる。和歌史記述の一環として、藤原定家の論文2本、源俊頼の論文2本、西行の論文1本および学会発表1本、世阿弥の作劇における和歌的方法の論文1本を刊行した。いずれも和歌の方法を機軸にして和歌史の動態を考察するもので、従来になく創意ある観点と評価される。和歌以外にも、『徒然草』の文学的意義を一般向けに提示した論考「言葉によってどのように「心」が表現されるのか」を発表した。

d 主要業績

(1) 著書

- 単著、渡部泰明、『古典和歌入門』、岩波書店、2014.6
- 単著、渡部泰明、『絵でよむ百人一首』、朝日出版、2014.10
- 共著、渡部泰明編、『和歌のルール』、笠間書院、2014.11
- 共著、『和歌文学大辞典』編集委員会編、『和歌文学大辞典』、古典ライブラリー、2014.12

(2) 論文

- 渡部泰明、「言葉によってどのように「心」が表現されるのか」、『人文知1 心と言葉の迷宮』、東京大学出版会、2014.7
- 渡部泰明、「藤原定家の百人一首歌」、『これからの国文学研究のために—池田利夫追悼論集』、笠間書院、2014.10
- 渡部泰明、「歌の（かたち）——源俊頼の方法」、『「かたち」再考 開かれた語りのために』、平凡社、2014.12
- 渡部泰明、「漢と和の「文」②——藤原定家に見る縁語的思考」、『日本「文」学史 第一冊「文」の環境——「文学」以前』、勉誠出版、2015.9
- 渡部泰明、「西行和歌の作者像」、『二〇一四年パリ・シンポジウム 源氏物語とポエジー』、青簡舎、2015.5
- 渡部泰明、「和歌の本意——『俊頼髓』をめぐって——」、『能と狂言』、12、能楽学会、2014.8
- 渡部泰明、「「高砂」の和歌的世界」、『観世』、第82巻第2号、檜書店、2015.1

(3) 学会発表

- 国内、渡部泰明、「西行の恋の題詠歌」、西行学会大会シンポジウム、兵庫県民会館、2015.8.30

国内、渡部泰明、「和歌をつくる」、和歌文学会大会シンポジウム、岡山大学、2015.10.10

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

放送大学客員教授、2014・2015年度

駒澤大学文学部、非常勤講師、2014年度

(2) 学会

和歌文学会、常任委員、2014・2015年度

中世文学会、常任委員、2014・2015年度

西行学会、常任委員、2015年度

(3) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

日本学術会議、連携会員、2015年度